

TTC 提案山行実施記録

2023年8月10日 M.H 作成

1.山行名	ハヶ岳縦走(編笠岳 2524m・権現岳 2715m・赤岳 2899m・阿弥陀岳 2805m)
2.実施日	2023年8月5日(土)~8月7日(月) 交通アクセス:マイカー
3.レベル/参加人員	レベル:★★★ 参加者:10名(男性5名/女性5名)
4.パーティスタッフ	省略
5.参加メンバ	省略
6.費用 27,850円/人 カンパ金:260円	高速料金:往路@¥2,890×2台¥5,780 復路 @3,830×2台¥7,660、燃料代(佐藤敬号):175×160×2/10¥5,600、(青柳号):175×160×2/5¥11,200 トライバ`謝礼:@10,000*2台=¥20,000、マイカー使用代:160キロ×10×2×2¥6,400 青年小屋宿泊代¥:@10,000*10名=¥100,000、赤岳頂上山荘:¥12,000×10¥120,000、通信費:¥1,000、カンパ金:¥260 合計:¥278,500 ⇒ 1人あたり:@27,850

7. 歩行/行動時間

	8/5[土]			8/6[日]			8/7[月]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ガイドブック	5:00	-	-	4:35	-	-	5:25	-	-
計画	5:20	0:30	5:50	7:00	1:30	8:30	6:05	1:45	7:50
実績	5:05	1:29	6:34	5:30	0:58	6:28	5:32	0:44	6:16

8. 実行コースタイム記録

8/5[土]:天候:晴時々曇

(休憩 0:44 昼食含)

各ピックアップ場所===圏央厚木 IC===初狩 SA===小淵沢 IC===船山十字路-----西岳-----青年小屋-----
6:10 7:40-52 8:37 9:19-37 13:23-33 14:40-15:00
-----編笠岳-----青年小屋
15:30-45 16:11

8/6[日]:天候:曇のち晴

(休 10) (休 15) (休 10)

青年小屋-----権現岳---キレット小屋---赤岳-----赤岳頂上山荘
5:30 朝食-6:25 8:04-8:14 10:35 12:40-53 12:53

8/7[月]:天候:霧~晴

(休 10) (休 15) (休 10)

赤岳頂上山荘----赤岳----中岳のコル----阿弥陀岳----御小屋山----船山十字路====
5:00 朝食- 5:37 5:41 7:02-08 7:44-47 10:44 11:53

====もみの湯===小淵沢 IC===圏央厚木 SA===本厚木

12:10-13:20 13:30 16:00 16:20

9. コースの概要、特記事項、反省事項等

- 台風の接近の影響が考えられ、7日は風速 20m との情報に実施が危ぶまれたが、予定日が近づくとつれ、やや好転した。しかし、刻々と変わる予報に振り回され、実施の可否を前日まで延期し、小屋にもその旨を了解してもらった。前日には何とか実施できそうな予報となり、実施を決定した。二泊三日の山行は、3日とも好天が見込まれることは少ないので判断が難しかった。
- 当日は計画書の集合時刻を1時間繰り上げたので、渋滞を回避できると考え、圏央厚木 IC に 6:10 に入った。高尾を過ぎると渋滞し始めたので、判断の難しさを感じた。それでも、相模湖 IC からかかる時間とほぼ同じ時間で小淵沢 IC を抜けることができた。
- 舟山十字路は、駐車スペースに限りがあり心配していたが、2台停めるスペースがあり、ほっとした。
- 初めは平たんな林道歩きが続いた。キバナヤマオダマキがいたるところに咲き、ソバナ、ギボウシ、フシゴロセンノウ、オトギリソウなども見られた。また、アサギマダラが蜜を求めて数匹飛び姿も見られた。
- 林道から樹林帯に入ると、ハヶ岳らしい苔むした風景となり、斜度も増した。西岳からは、権現岳が正面に見え、翌日登る山だと思うと、わくわくした。
- 青年小屋の手前には乙女の水と呼ばれる水場があり、その冷たい水を汲んで翌日に備えた。
- 計画では、6日に編笠岳に登る予定だったが、計画より早く青年小屋に着いたため、青年小屋で一休みしてから編笠岳に登った。岩場がしばらく続き、樹林帯を過ぎると大展望を望むことができた。ハヶ岳らしい荒々しい山容に緊張感が増した。

- 青年小屋の食事は手造りのシューマイや卵焼きなど心がこもっていて満足した。
- 6日はいよいよ権現岳、赤岳登頂というメイン山行で、計画は7時出発だったが、朝食が5:30だったので早めに出発した。ガレ場や岩場の道を慎重に歩き、1時間30分ほどで権現岳に登頂した。長い梯子を過ぎ、灌木の中の尾根歩きのあとは一番緊張の連続する箇所が続く。落石の危険のあり、慎重に歩を進めた。その後も、ハシゴ場、クサリ場が続き、一瞬たりとも気を抜けない状況が続いた。そんな中でもいたるところに花が咲き、お花畑のような景色に癒された。カワラナデシコ、ジャコウソウ、イワギキョウ、ウメバチソウ、トウヤクリンドウコマクサ、イワツメクサ、オタカラコウ、トウヒレン、キンバイソウ、イワベンケイなどが見られた。
- やっとの思いで赤岳の頂上に立つことができ、一同ほっと胸をなでおろした。ゆっくり登頂の感動を味わい、頂上山荘に向かった。夕飯までの長い時間を食堂で過ごしたが、二方向がガラスで、まるで雲上のテラスのようで周りの山々の景観を楽しみながら懇親を深めた。「天気とくらす」の翌日の予報はA判定だったので安心して床に就いた。
- しかし、夜中、風と雨音に何度も目が覚め、翌日の天気が懸念された。相変わらず予報はA判定だったが、結局、下山までほぼ霧の中だった。途中から風が弱くなったのが唯一救いだった。無事、船山十字路に下山することができ、達成感、満足感に浸ることができた。

今回は皆様のご協力が無事八ヶ岳縦走を終えることができました。本当にありがとうございました。

—以上—